

校長室だより

No. 42

平成31年2月22日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとうよし かざ
加藤嘉一

子供の主体性をどう考えるか どう育てるか

－第4学年「6年生を送る会」の取り組みから（特別活動）－



【4年生 学年の話し合い 19日(火)】

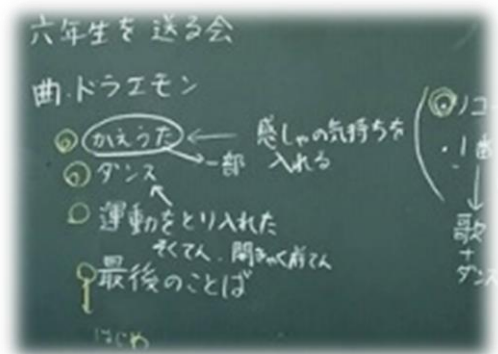
19日(火)の5時間目に教室を回っていると、4年生が2組に集合し、何やらやっています。廊下からのぞくと、楽しそうな話し合いをしています。これは中に入ってみてみたいと思い、よくよく見ると、「6年生を送る会」の4年生の出し物を、みんなで考えていたのです。コンパクトな2学級の本校

だから十分1教室で話し合いができます。

この様子を見ていると、4年の先生方の授業構想はさすがだなと感じました。「6年生を送る会」は3月1日(金)の午後の予定。各学年の出し物の時間は、入退場を含めて5分以内です。(授業時間確保の面から、練習時間ばかり取らないといけなようなことを避ける配慮をしています。)この条件で、6年生のために約1週間できることを考えなければなりません。それを子供たちに考えさせていました。

この4年生というところが微妙なところ。これまである程度お楽しみ会などの企画経験もありますし、委員会活動などから上学年の企画や話し合いの様子を見えています。学校の行事もそれなりに経験してきていますから、5年生に向けても、自分たちで企画を考え、練習の道筋をつける力も協力する力もつけてやりたいところです。しかし、何も無いところから考えることは、実施不可能なことを発案する子供も出ますし、何をしてもよいかわからない子供もたくさん出るものです。時間的な見通しや、必要な準備など、大人でもうまく考えられないことが多く、このあたりのことをどう助言するかは教員の見通しが必要です。それを見通し、4年の先生たちは、予め「ドラえもん」の曲を使う」ということを決めて始めていました。今年体育祭で踊った曲で、子供が大好きなことを知っていたからです。

ここから何をやるか自分たちでやりたいこと、できることを考えさせていました。子供たちは、「替え歌」(感謝の気持ちを入れる)「ダンス」「運動を取り入れる」



「はじめの言葉」「終わりの言葉」を行うなどの案を出し、先生が運動とは何を取り入れたいと考えているのか、それはできるのか、やれるのかなどを聞き返して具体的な中身が見える形にしていってました。

また、学年のコンビネーションもよい。若手の古賀先生が話し合いのコーディネーター役を行い、話し合いの流れのなかで、子供の発言が興味のおもむくままに走り始めたりすると、学年主任の小田先生が、「一回ここまで話し合ったことをまとめてごらん。まとめられる子言ってごらん」「(個人の練習時間は取れないから) 5秒で(時間をかけずに) やれるものにしなさい」など、冗談っぽく言いながら話し合いが意味のある方向に導いています。その場にはないと伝わりにくい事なのですが、絶妙のタイミングで。若い古賀先生も、勉強になります。

子供の話し合いの授業をつくることは、大変修業がいります。

- 何を話し合わせるとよいか
 - どこまでのことを自分たちで考えさせるか
 - 子供が発言できる内容とできない内容の見極め
 - 発言の取り上げ方や価値付け、深く考えさせるための意図的な返し方と使う言葉
 - 話し合うべきことがそれていくとき、教師はどこまで子供に任せるか
 - 子供の発言にどう責任をもたせるか
- など

時々これのうまい先生がいます。話し合いの授業をつくることは、知っていることを説明する授業と違います。(昔の授業はこのパターンが多かったです。)先生ばかりがしゃべっていたら、子供の話し合いは全く主体的になりません。先生の願いが強く、先生が世間的に高い内容を引き出したいなど、大人の考えや価値観があまりにも前面に出てしまうと、子供が困惑したりやらされている話し合いになったりします。それでは学びになりません。しかも、低学年、中学年、高学年、中学生、それぞれの話し合いのレベルは、どの程度までできればよいと考えるか、はじめはよく分からない。わたしも中学校から小学校へ転勤したばかりの頃は、よく分かりませんでした。マニュアルなど存在しません。

さてさて、4年生がこれで本番はどうなるのでしょうか。うまくできるかどうかはわかりません。でも間違いなく、子供たちは自分たちで具体的に何をやるかを決めていくので、やった感(達成感)をもつのでしょうか。今後先生方が裏で進み具合を監督しながら、適当に助けたり任せたりすることが条件ですが。そして、本番で多少失敗しても、先生が子供に何ができるようになったかを明るく具体的に成長を示し、自覚させたり、楽しさを共有したりすることです。こうすることで、子供の主体的な力がつくられていきます。数字で見る学力とは違います。

(教科の主体的な力についての考えは、もう少し教科の考え方がありますので、掲載する機会が出てれば、またその時に書きたいと思います。)

4年生の生き生きと自分の考えを述べ、それを聞いている子供たちがぶつぶつ反応し、また次の意見を発信していく姿を見て、楽しい気持ちになりました。